

浜の活力再生プラン  
令和 7～11 年度  
第 3 期

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	伊勢湾漁協地域水産業再生委員会
代表者名	杉田 英男（伊勢湾漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	伊勢湾漁業協同組合、伊勢市、明和町
オブザーバー	三重県津農林水産事務所水産室、三重県伊勢農林水産事務所水産室

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	伊勢市及び明和町の区域 伊勢湾漁業協同組合（正組合員80名） 黒のり養殖業（13名）、青のり養殖業（2名）、採貝漁業（50名）、小型底びき網漁業（26名）、刺網漁業（54名） （令和 6 年 3 月時点）※複数漁業種類での兼業有り。
-------------------	---

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当該地域は、伊勢湾の南西部に位置し、2市町にまたがった11漁村地区からなる広域の漁業地域であり、一級河川である榑田川と宮川の河口域に大型の干潟・浅海域を有し、栄養塩に富んだ高い生産力を有する海域である。この海域では主にハマグリ等採貝漁業、のり養殖業、小型底びき網漁業等が行われている。近年は、のり養殖業においても温暖化に伴う漁場環境の変化による生産力や品質の低下が続き、小型底びき網漁業では貧酸素水塊発生等による底魚資源の減少が顕著である。採貝漁業では、アサリ資源の激減が続いている中で、生息量の増加がみられるハマグリについては、稚貝の放流や保護に努めている。

魚価が低迷する中で、燃油及び漁業資材の高騰が長期間続いており、年々漁業経営は厳しくなっている。さらに、高齢化率も高いことから、生産力が低下しており、持続的かつ安定的な漁業経営への改善が必要となっている。

漁業者は、近年の急激な資源減少を危機と感じ、自主的に貝類や底魚の増殖や資源管理及び漁場環境の改善に取り組んでいるものの、資源の激減しているアサリの回復は厳しく、底魚資源の回復も早急に見込めないことから、将来への不安感が増幅している。

このため、資源の安定増大と生産効率化、のり養殖生産技術の高度化、省エネによるコスト削減、労働作業省力化、漁獲物の加工製品等による付加価値向上及び流通販売促進による漁業収益の向上と地域漁業の経営安定化が漁村・漁業活性化に最重要となっている。

伊勢湾漁協地域の再生は、漁業者人口の減少と担い手後継者不足などへの対応が漁村地域の存亡をかけた喫緊の課題となっている。

(2) その他の関連する現状等

当該地域は齋宮や伊勢神宮、伊勢志摩国立公園等の観光地域圏内であり、国内、世界各地からの多様な観光客に対し、伊勢の地産地消や魚食普及のPR推進による消費拡大が期待される。加えて、和食がユネスコ無形文化遺産登録されたことで、日本人の伝統的な食文化が見直され、魚食復活や国民の魚食文化のあり方の再発見につながると期待されている。

また、沿海地区漁協の存続は、漁村コミュニティによる伝統的な社会文化の継承にも繋がっている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

◆漁業収入向上のための取組

1 採貝漁業の活性化

- ・ 1日の操業時間や漁獲サイズの制限の設定等により、漁業者が自主的な資源管理に取り組む。
- ・ 地先漁場に複数の禁漁区を設定し、アサリ、ハマグリなどの稚貝放流を促進するとともに、食害生物（ツメタガイ、ヒトデ等）を駆除することで資源増殖を図る。
- ・ 藻場・干潟等の保全活動に取り組み、海底耕うんや漂着物・海底堆積物等の除去による底質の改善を図る。
- ・ バイガイの漁獲方法について、漁獲制限や禁漁区の設定を行うなど、資源管理や操業ルールの整備に取り組むことでバイ採貝を営む漁業者を増やし、生産量の増大を図るとともに、つくだ煮などの加工品製造による販売促進を図る。

## 2 のり養殖業の活性化

- ・伊勢湾藻類漁場利用計画で定めた養殖漁場の適正養殖可能数量を遵守し、漁場環境の保全を図る。
- ・生産力向上に向け、二次芽が付きやすい採苗密度の種網づくり、育苗時の網洗いの励行、漁場観測システムの活用によるきめ細かな養殖管理などに取り組む。
- ・のりの色落ち対策・品質向上に向け、漁場への肥料埋却による施肥に取り組み、漁場の栄養塩類の増加を図る。
- ・陸上養殖施設でのスジアオノリ養殖の規模拡大を進める。
- ・伊勢湾（三重県）産のりのPRや消費拡大を図るため各種イベントに参画し、伊勢湾産のりの認知度向上による消費拡大に取り組む。

## 3 小型底びき網漁業の活性化

- ・海底耕うんによる干潟・浅場の保全活動に取り組み、漁場環境の保全を図る。
- ・クルマエビやヒラメの種苗放流などによる底魚資源増殖によって生産力向上を図る。
- ・施氷の徹底等による鮮度保持向上や、フィッシュアナライザーを用いた脂肪含有量の見える化を実施することにより平均魚価の向上を図る。
- ・直販・移動販売等により、ガザミやクロダイ、スズキなどの地元水産物やフィレやロインなどの付加価値を高めた加工品の販売促進を図る。

### ◆漁業コストの削減の取組

- ・燃油コスト削減のために、減速航行、船底清掃等による燃油使用量の削減を図る。
- ・漁業経営セーフティーネット構築事業の加入促進による経営安定を図る。

### ◆漁村の活性化のための取組

- ・地元小学校への出前授業やイベントでの地元水産物の即売会開催などで、伊勢湾産水産物の美味しさを小学生や消費者に広く伝え、認知度の向上を図る。
- ・直販・移動販売等について、販売エリアを見直すことにより、販売の効率化を進め、付加価値を高めた地元水産物や加工製品の販売促進を図るとともに、集客力増加による交流人口の増加や地域活性化を図る。

## (3) 資源管理に係る取組

三重県漁業調整規則（第36条 アサリ及びハマグリ殻長制限）

三重県漁業調整規則（第12条 許可等の基準）

伊勢湾藻類漁場利用計画（持続的養殖生産確保法第4条：行使柵数）

三重県資源管理指針（管理の方向）

三重県伊勢湾海域における伊勢湾漁業協同組合の小型機船底びき網漁業（まめ板網漁業）に関する資源管理協定（休漁、漁獲物制限、漁具制限）

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）3.6%

漁業収入向上のための取組	<p><b>1 採貝漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1日の作業時間や漁獲サイズの制限の設定等により、漁業者が自主的な資源管理に取り組む。</li><li>・漁場に禁漁区を設定してアサリやハマグリなどの稚貝を放流し、保護・管理することにより資源の増加を図るとともに、区域や放流時期の見直しを検討する。</li><li>・禁漁区に放流したアサリやハマグリなどの稚貝に対する食害生物（ツメタガイ、ヒトデ等）を駆除する。</li><li>・漁業者は、貝桁漁具を使った海底耕うんにより漁場の底質の改善に取り組むとともに、課題の整理や実施方法の見直しを検討する。</li><li>・藻場・干潟等の漂着物・海底堆積物等の除去を行い、底生生物の生育環境を保護する。</li><li>・バイ採貝を営む漁業者の増加に向け、課題を整理するとともに、漁具の変更や禁漁期間の設定など作業ルールの検討を行う。</li><li>・バイガイの販売促進に向け、直販・移動販売との連携によるつくだ煮の販路拡大を図る。</li></ul> <p><b>2 のり養殖業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊勢湾藻類漁場利用計画で定めた適正養殖可能数量を遵守し、漁場環境の保全を図る。</li><li>・生産力向上に向け、二次芽が付きやすい採苗密度の種網づくり、育苗時の網洗いの励行を徹底する。</li><li>・ICT機器を活用した黒のり養殖漁場の環境観測を県水産研究所、漁連等と連携して行い、情報活用や機器のメンテナンスを徹底することで、生産の安定化に取り組む。</li><li>・漁場の栄養塩類の増加に向けた肥料の埋設等について、課題の整理や実施方法の見直しを検討する。</li><li>・陸上養殖施設でのスジアオノリ養殖が軌道に乗るよう、必要な支援や調整に協力する。</li><li>・伊勢湾（三重県）産のりのPRや消費拡大を図るため各種イベントに参画し、伊勢湾産のりの認知度向上による消費拡大に取り組む。</li></ul> <p><b>3 小型底びき網漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁業者は、貝桁漁具を使った海底耕うんにより漁場の底質の改善に取り組むとともに、課題の整理や実施方法の見直しを検討する。</li><li>・クルマエビやヒラメの種苗放流などによる底魚資源増殖によって生産力向上を図る。</li><li>・施氷の徹底等による鮮度保持向上や、フィッシュアナライザーを用いた脂肪含有量の見える化を実施することにより平均魚価の向上を図る。</li><li>・直販・移動販売等により、ガザミやクロダイ、スズキなどの地元水産物を販売するとともに、フィレやロインなどの販売に向け、課題の整理・試行に向けた検討を行う。</li></ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"><li>・港内減速航行、年1回以上の船底清掃を推進する。</li><li>・漁場でも減速航行を実施し、コスト削減に取り組む。</li><li>・漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、燃油の高騰に備える。</li><li>・漁業経営の効率化を図るため、経費支出を見直し、経費削減に努める。</li></ul>

<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元小学校への出前授業やイベントでの即売会の開催などで、伊勢湾産の水産物の美味しさを小学生や消費者に広く伝え、認知度の向上を図る。</li> <li>・移動販売車の販路の見直しや地区の選別を実施し、より効率的な販売を行うとともに、集客力増加による交流人口の拡大を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・漁場生産力・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・漁業収入安定対策事業（国）</li> <li>・スマート水産業推進事業（国）</li> <li>・水産業強化支援事業（国）</li> </ul>

2年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）5.6%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li> <p><b>1 採貝漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の操業時間や漁獲サイズの制限を設定等により、漁業者が自主的に資源管理に取り組む。</li> <li>・見直し結果を踏まえ、漁場に禁漁区を設定してアサリやハマグリなどの稚貝を放流し、保護・管理することにより資源の増加を図る。</li> <li>・禁漁区に放流したアサリやハマグリなどの稚貝に対する食害生物（ツメタガイ、ヒトデ等）を駆除する。</li> <li>・貝桁漁具を使った海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質改善を図る。</li> <li>・藻場・干潟等の漂着物や海底堆積物等の除去を行い、底生生物の生育環境を保護する。</li> <li>・前年度の検討結果を踏まえ、バイ採貝の資源管理のルールに基づいた操業を試行する。</li> <li>・バイガイの販売促進に向け、直販・移動販売との連携によるつくだ煮の販路拡大を図る。</li> </ul> </li> <li> <p><b>2 のり養殖業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢湾藻類漁場利用計画に係る適正養殖可能数量を遵守し、漁場環境の保全を図る。</li> <li>・生産力向上に向け、二次芽が付きやすい採苗密度の種網づくり、育苗時の網洗いの励行を徹底する。</li> <li>・ICT機器を活用した黒のり養殖漁場の環境観測を県水産研究所、漁連等と連携して行い、情報活用や機器のメンテナンスを徹底することで、生産の安定化に取り組む。</li> <li>・前年度の見直し結果を踏まえ、より効果的に漁場に栄養塩類が供給されるよう、適切な場所や時期に肥料の埋設を実施する。</li> <li>・陸上養殖施設でのスジアオノリ養殖が軌道に乗るよう、必要な支援や調整に協力する。</li> <li>・伊勢湾（三重県）産のりのPRや消費拡大を図るため各種イベントに参画し、伊勢湾産のりの認知度向上による消費拡大に取り組む。</li> </ul> </li> <li> <p><b>3 小型底びき網漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質改善を図る。</li> </ul> </li> </ol>
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルマエビ及びヒラメの種苗放流などによる底魚資源増殖によって生産力向上を図る。</li> <li>・施氷の徹底等による鮮度保持向上や、フィッシュアナライザーを用いた脂肪含有量の見える化を実施することにより平均魚価の向上を図る。</li> <li>・直販・移動販売等により、ガザミやクロダイ、スズキなどの地元水産物を販売するとともに、フィレやロインなどの販売に向け、加工場の準備や加工技術の習得に取り組む。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港内減速航行、年1回以上の船底清掃を推進する。</li> <li>・漁場でも減速航行を実施し、コスト削減に取り組む。</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、燃油の高騰に備える。</li> <li>・漁業経営の効率化を図るため、経費支出を見直し、経費削減に努める。</li> </ul>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元小学校への出前授業やイベントでの即売会の開催などで、伊勢湾産の水産物の美味しさを小学生や消費者に広く伝え、認知度の向上を図る。</li> <li>・直販・移動販売等により、付加価値を高めた地元水産物や加工製品の販売促進を図るとともに、集客力増加による交流人口の拡大を図る。また、移動販売車の販路見直しや地区の選別について効果を検証する。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・漁業収入安定対策事業（国）</li> <li>・スマート水産業推進事業（国）</li> <li>・水産業強化支援事業（国）</li> </ul>

3年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）7.5%

漁業収入向上のための取組	<p><b>1 採貝漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の操業時間や漁獲サイズの制限の設定等により、漁業者が自主的な資源管理に取り組む。</li> <li>・これまでに設定した禁漁区にアサリやハマグリなどの稚貝を放流するとともに、試験操業や資源調査により、取組の効果を検証する。</li> <li>・禁漁区に放流したアサリやハマグリなどの稚貝に対する食害生物（ツメタガイ、ヒトデ等）を駆除する。</li> <li>・貝桁漁具を使った海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質改善を図る。</li> <li>・藻場・干潟等の漂着物や海底堆積物等の除去を行い、底生生物の生育環境を保護する。</li> <li>・バイ採貝の資源管理ルールに基づいた操業の実施により資源管理を図るとともに、秩序ある操業により、漁獲圧が過大とまらない範囲で漁業者の増加を図る。</li> <li>・バイガイの販売促進に向け、直販・移動販売なども活用しながらつくだ煮等加工品について、消費者等の評価を検証する。</li> </ul>
--------------	---

	<p><b>2 のり養殖業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伊勢湾藻類漁場利用計画に係る適正養殖可能数量を遵守し、漁場環境の保全を図る。</li> <li>生産力向上に向け、二次芽が付きやすい採苗密度の種網づくり、育苗時の網洗いの励行を徹底する。</li> <li>ICT機器を活用した黒のり養殖漁場の環境観測を県水産研究所、漁連等と連携して行い、情報活用や機器のメンテナンスを徹底することで、生産の安定化に取り組む。</li> <li>これまでの実施結果を検証し、より効果的に漁場に栄養塩類が供給されるよう、適切な場所や時期に肥料の埋設を実施する。</li> <li>陸上養殖施設でのスジアオノリ養殖が軌道に乗るよう、必要な支援や調整に協力する。</li> <li>伊勢湾（三重県）産のりのPRや消費拡大を図るため各種イベントに参画し、伊勢湾産のりの認知度向上による消費拡大に取り組む。</li> </ul> <p><b>3 小型底びき網漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質改善を図る。</li> <li>クルマエビ及びヒラメなどの種苗放流などによる底魚資源増殖によって生産力向上を図る。</li> <li>施氷の徹底等による鮮度保持向上や、フィッシュアナライザーを用いた脂肪含有量の見える化を実施することにより平均魚価の向上を図る。</li> <li>直販・移動販売等により、ガザミやクロダイ、スズキなどの地元水産物を販売するとともに、フィレやロインなどを試験販売し、消費者等の評価を検証する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>港内減速航行、年1回以上の船底清掃を推進する。</li> <li>漁場でも減速航行を実施し、コスト削減に取り組む。</li> <li>漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、燃油の高騰に備える。</li> <li>漁業経営の効率化を図るため、経費支出を見直し、経費削減に努める。</li> </ul>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元小学校への出前授業やイベントでの即売会の開催などで、伊勢湾産の水産物の美味しさを小学生や消費者に広く伝え、認知度の向上を図る。</li> <li>検証結果を踏まえたより効率的な販路・地区で直販・移動販売等を実施し、付加価値を高めた地元水産物や加工製品の販売促進を図るとともに、集客力増加による交流人口の拡大を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）</li> <li>漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>漁業収入安定対策事業（国）</li> <li>スマート水産業推進事業（国）</li> <li>水産業強化支援事業（国）</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1 採貝漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の操業時間や漁獲サイズの制限の設定等により、漁業者が自主的な資源管理に取り組む。</li> <li>・これまでに設定した禁漁区にアサリやハマグリなどの稚貝を放流するとともに、試験操業や資源調査により、効果を検証する。</li> <li>・禁漁区に放流したアサリやハマグリなどの稚貝に対する食害生物（ツメタガイ、ヒトデ等）を駆除する。</li> <li>・貝桁漁具を使った海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質の改善に取り組む。</li> <li>・藻場・干潟等の漂着物や海底堆積物等の除去を行い、底生生物の生育環境を保護する。</li> <li>・バイ採貝の資源管理ルールに基づく秩序ある操業により、漁獲圧が過大とならない範囲で漁業者の増加を図る。</li> <li>・バイガイの販売促進に向け、直販・移動販売なども活用しながらつくだ煮等を販売するとともに、消費者評価を踏まえて、製品のブラッシュアップを行う。</li> </ul> <p><b>2 のり養殖業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢湾藻類漁場利用計画に係る適正養殖可能数量を遵守し、漁場環境の保全を図る。</li> <li>・生産力向上に向け、二次芽が付きやすい採苗密度の種網づくり、育苗時の網洗いの励行を徹底する。</li> <li>・ICT機器を活用した黒のり養殖漁場の環境観測を県水産研究所、漁連等と連携して行い、情報活用や機器のメンテナンスを徹底することで、生産の安定化に取り組む。</li> <li>・これまでの実施結果を検証し、より効果的に漁場に栄養塩類が供給されるよう、適切な場所や時期に肥料の埋設を実施する。</li> <li>・陸上養殖施設でのスジアオノリ養殖が軌道に乗るよう、必要な支援や調整に協力する。</li> <li>・伊勢湾（三重県）産のりのPRや消費拡大を図るため各種イベントに参画し、伊勢湾産のりの認知度向上による消費拡大に取り組む。</li> </ul> <p><b>3 小型底びき網漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質改善を図る。</li> <li>・クルマエビ及びヒラメなどの種苗放流などによる底魚資源増殖によって生産力向上を図る。</li> <li>・施氷の徹底等による鮮度保持向上や、フィッシュアナライザーを用いた脂肪含有量の見える化を実施することにより平均魚価の向上を図る。</li> <li>・直販・移動販売等により、ガザミやクロダイ、スズキなどの地元水産物を販売するとともに、検証結果を踏まえて、フィレやロインなどの加工や販売の方法について見直す。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港内減速航行、年1回以上の船底清掃を推進する。</li> <li>・漁場でも減速航行を実施し、コスト削減に取り組む。</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、燃油の高騰に備える。</li> <li>・漁業経営の効率化を図るため、経費支出を見直し、経費削減に努める。</li> </ul>

<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元小学校への出前授業やイベントでの即売会の開催などで、伊勢湾産の水産物の美味しさを小学生や消費者に広く伝え、認知度の向上を図る。</li> <li>・検証結果を踏まえたより効率的な販路・地区で直販・移動販売等を実施し、付加価値を高めた地元水産物や加工製品の販売促進を図るとともに、集客力増加による交流人口の拡大を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・漁業収入安定対策事業（国）</li> <li>・スマート水産業推進事業（国）</li> <li>・水産業強化支援事業（国）</li> </ul>

5年目（令和11年度） 所得向上率（基準年比） 11.4%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1 採貝漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の操業時間や漁獲サイズの制限の設定等により、漁業者が自主的な資源管理に取り組む。</li> <li>・これまでに設定した禁漁区にアサリやハマグリなどの稚貝を放流するとともに、試験操業や資源調査により、効果を検証する。</li> <li>・禁漁区に放流したアサリやハマグリなどの稚貝に対する食害生物（ツメタガイ、ヒトデ等）を駆除する。</li> <li>・貝桁漁具を使った海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質の改善に取り組む。</li> <li>・藻場・干潟等の漂着物や海底堆積物等の除去を行い、底生生物の生育環境を保護する。</li> <li>・バイ採貝の資源管理ルールに基づく秩序ある操業により、漁獲圧が過大とならない範囲で漁業者の増加を図る。</li> <li>・バイガイの販売促進に向け、直販・移動販売なども活用しながらつくだ煮等の加工品を販売するとともに、消費者評価を踏まえて、製品のブラッシュアップを行う。</li> </ul> <p><b>2 のり養殖業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢湾藻類漁場利用計画に係る適正養殖可能数量を遵守し、漁場環境の保全を図る。</li> <li>・生産力向上に向け、二次芽が付きやすい採苗密度の種網づくり、育苗時の網洗いの励行を徹底する。</li> <li>・ICT機器を活用した黒のり養殖漁場の環境観測を県水産研究所、漁連等と連携して行い、情報活用や機器のメンテナンスを徹底することで、生産の安定化に取り組む。</li> <li>・これまでの実施結果を検証し、より効果的に漁場に栄養塩類が供給されるよう、適切な場所や時期に肥料の埋設を実施する。</li> <li>・陸上養殖施設でのスジアオノリ養殖が軌道に乗るよう、必要な支援や調整に協力する。</li> <li>・伊勢湾（三重県）産のりのPRや消費拡大を図るため各種イベントに参画し、伊勢湾産のりの認知度向上による消費拡大に取り組む。</li> </ul>
---------------------	--

	<p><b>3 小型底びき網漁業の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海底耕うんの課題や見直し結果をふまえ、適切な区域や方法により実施することで、効果的に漁場の底質改善を図る。</li> <li>・クルマエビ及びヒラメなどの種苗放流などによる底魚資源増殖によって生産力向上を図る。</li> <li>・施氷の徹底等による鮮度保持向上や、フィッシュアナライザーを用いた脂肪含有量の見える化を実施することにより平均魚価の向上を図る。</li> <li>・見直し結果も踏まえて、直販・移動販売等により、ガザミやクロダイ、スズキなどの地元水産物やフィレやロインなどの加工品を販売する。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港内減速航行、年1回以上の船底清掃を推進する。</li> <li>・漁場でも減速航行を実施し、コスト削減に取り組む。</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、燃油の高騰に備える。</li> <li>・漁業経営の効率化を図るため、経費支出を見直し、経費削減に努める。</li> </ul>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元小学校への出前授業やイベントでの即売会の開催などで、伊勢湾産の水産物の美味しさを小学生や消費者に広く伝え、認知度の向上を図る。</li> <li>・検証結果を踏まえたより効率的な販路・地区で直販・移動販売等を実施し、付加価値を高めた地元水産物や加工製品の販売促進を図るとともに、集客力増加による交流人口の拡大を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・漁業収入安定対策事業（国）</li> <li>・スマート水産業推進事業（国）</li> <li>・産地水産業強化支援事業（国）</li> <li>・水産環境整備事業（国）</li> </ul>

(5) 関係機関との連携

<p>水産資源増殖及びのり養殖の生産技術の向上が十分発揮できるよう、国、県、研究機関、県漁連、関係漁協と情報共有し、協働連携した取組を推進する。</p> <p>水産物の消費拡大に向け、県内外の流通・加工業者及び飲食店等との連携を積極的に図り、観光関連産業とも関わることで、新しい消費者層を開拓していく。</p> <p>下御糸漁港で計画されている海業の取組と連携し、漁業者の収入向上を図る。</p>
--

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

<p>県、市町、漁業協同組合により自ら評価した自己評価結果（案）に、外部専門家（1名）からの評価意見を付して決定し、次年度以降の取組につなげる。</p>
--

#### 4 目標

##### (1) 所得目標

漁業者の所得の 向上10%以上	基準年	
	目標年	

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

##### (3) 所得目標以外の成果目標

###### ① 所得向上の取組に係る成果目標

鮮魚類の平均単価の向上	基準年	令和元年度～ 令和5年度 5中3平均:	512	円/kg
	目標年	令和11年度:	525	円/kg

###### ② 漁村活性化の取組に係る成果目標

直販、移動販売車による1 日当たりの販売額の向上	基準年	令和5年度:	63	千円/日
	目標年	令和11年度:	69	千円/日

##### (4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>①所得向上の取組に係る成果目標</p> <p>小型底びき網漁業で漁獲されるクロダイ、カレイ、スズキなど、伊勢湾漁協の市場で取扱う魚類の魚価は、ブランド化を行っている近隣漁協と比べて低くなっている。そのため、施氷の徹底等による鮮度保持向上や、フィッシュアナライザーを用いた脂肪含有量の見える化を実施することにより平均魚価の向上を図る。令和元年度～5年度の平均魚価単価の5中3平均512円/kgを基準年とし、最終年度の平均魚価単価525円/kg（2.5%向上）を目指す。</p> <p>②漁村活性化の取組に係る成果目標</p> <p>基準年である令和5年度の直販、移動販売車による1日当たりの販売額は、63千円である。販路の見直しや、地区の選別を行うことで効率的な販売を目指すとともに、消費者が買いやすい商品づくりを行うことで1日当たりの販売額を基準年の10%向上を目指す。</p>
--

## 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化型機器導入緊急対策事業（国）	生産性の向上、省力、省コスト化に資する漁業用機器の導入支援
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）	堆積物の除去を行うことにより干潟及びアサリ漁場の環境保全を図る
漁業経営セーフティネット構築等事業（国）	燃油高騰が漁業経営を圧迫して悪化する影響の緩和を図る
漁業収入安定対策事業（国）	漁業共済、積み立てプラスを活用して資源管理、漁場改善計画の取り組みに対する支援
水産業強化支援事業（国）	共同利用施設の整備を行い、経費節減を図る
スマート水産業推進事業（国）	のりの漁場観測や食害生物駆除のためのICT機器を導入する。